

いなみ

井波地区

(富山県南砺市)

- 計画期間 平成21年度～平成25年度
- 面積 191.5ha
- 交付対象事業費 1,150百万円
- 市人口 48,312人 (地区内人口4,166人)

- ポイント** 「交流型観光のまちづくり」
 「住みよいまちづくり」
 「安全・安心なまちづくり」

地区概要 木彫りの里、瑞泉寺で全国的に有名な観光地として、安全・安心・快適となる整備をすすめて、交流人口の増加または地域住民の定住化を促進する。

目標 都市計画道路谷今町線の整備や消雪パイプの設置、駐車場、石畳舗装の整備により、観光客やイベント参加者の利便性の向上、または地域住民の住環境整備の向上により、まちづくりの推進を図る。

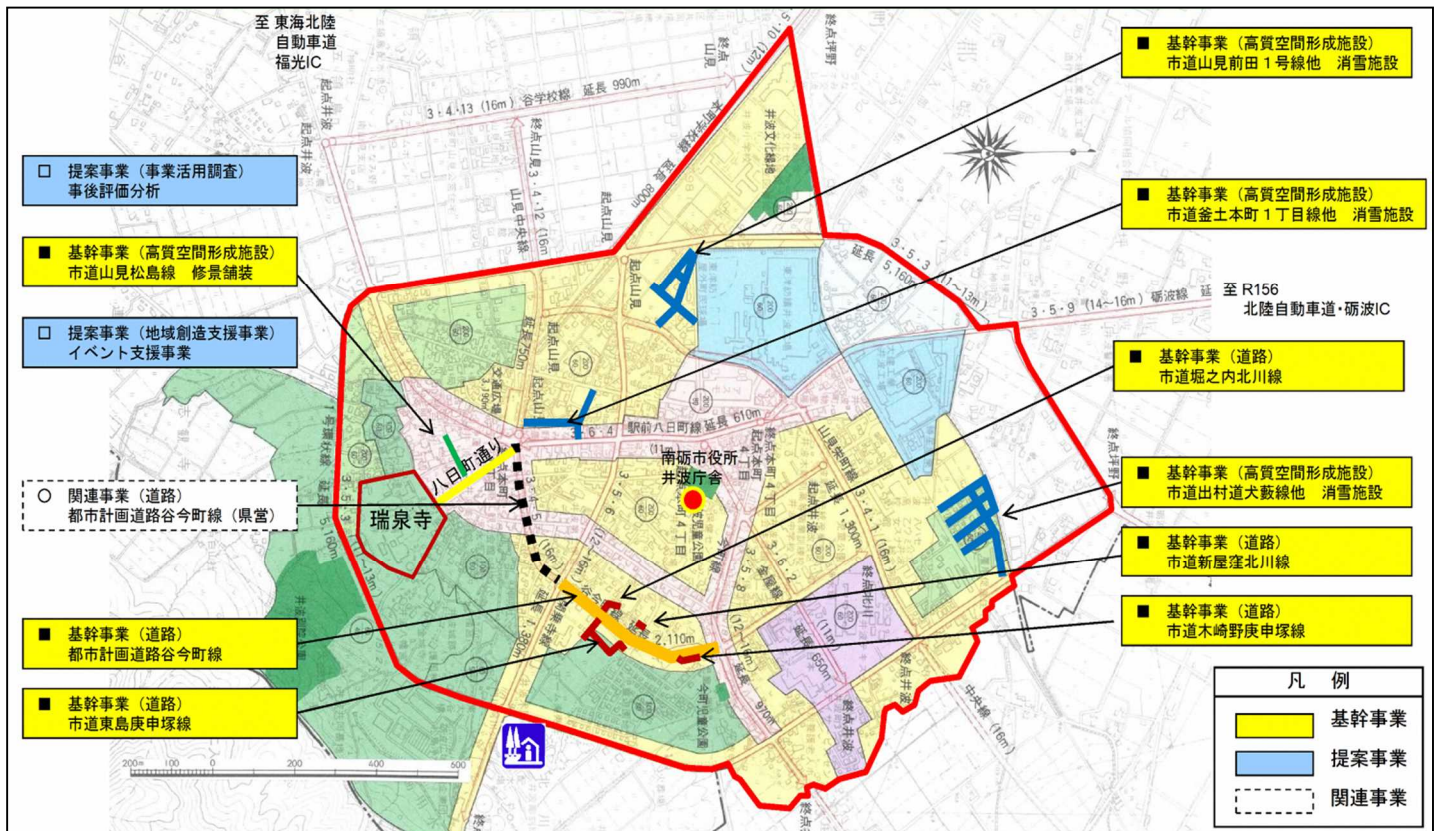
指標

観光やイベントにおいて交流人口の増加を図ることから、観光客数、イベント参加者数を指標とし、もうひとつ定住促進については、地区内人口の変動率の減少を指標とした。

観光客数	10万人 (H19)	→	11万人 (H25)
イベント参加者数	6万人 (H19)	→	7万人 (H25)
地区内人口の変動率	-6.7% (H15-20)	→	-6.5% (H20-25)

事業内容

- 基幹事業 (1,145百万円) → 道路 (幅員6~16m、延長742m)
 高質空間形成施設 (景観舗装520m、消雪パイプ2,054m)
- 提案事業 (5百万円) → まちづくり活用調査、イベント支援事業



地区の現況と課題

現況

本地区は全国から参拝客が訪れる瑞泉寺や、木彫りの里として全国に知られていることから多くの観光客で賑わっている。しかし、鉄道がなく観光客の大半は大型観光バスあるいはマイカーを交通手段としており、現状の狭隘な道路網では、特に八日町通りにおいては観光車両とまちなか観光者が混在するため交通安全上危険な状態にある。

また、観光客の減少に歯止めをかけるため滞留型観光に対応できる街づくりを進めていくことが重要であり、これまでの直線的な観光ルートから、面的な古刹めぐりの散策ルートなどアクセスルートの整備が不可欠となっている。

課題

まち中の観光客と通過交通を分離するため、また、既成市街地の防災機能を向上させるため、内環状線の整備、駐車場の整備が必要となっている。

八日町通りを中心とする地区を、井波彫刻や門前町の町並みを生かした回遊性の高い長時間滞在できる観光地として、誘客機能の充実や歩行ネットワークの整備充実を図る必要がある。



瑞泉寺



井波木彫刻

提案事業の特徴

イベント支援事業

人口減に歯止めがかからない現状で、南砺市総合計画では交流人口の増加を図ることが求められている。毎年開催されている井波地区内のイベントについて、マンネリ化から参加者数が減少していることを要因の一つと考え、新たなイベントの考察や内容の充実を図るため、地域住民のイベントに対する積極的な検討、勉強会等に対し支援するとともに、その結果実施されたイベントにも支援する。



よいやす祭り（八日町通り）

計画策定プロセス

南砺市都市計画マスタープラン

平成16年に4町4村が合併し南砺市が誕生した。新たな都市計画マスタープランの策定が必要となり、策定委員会による検討、各地域でワークショップなどを開催した。また、市ホームページでパブリックコメントとして広く市民から意見を求めて、平成20年度末に新マスタープランを策定し、平成21年度よりスタートしたところである。



ワークショップの様子

■基幹事業（道路）都市計画道路谷今町線



整備前



整備後